

# 一筆日記

Ippitsu Diary

二唐 彩乃



## 書をもっと身近にする

書道は、私にとって美術や音楽と同じくらい身近な芸術である。しかし、多くの人にとっては敷居の高い未知の世界。一筆日記は「私が感じた魅力を他の誰かにも感じてほしい」という気持ちから生まれた。「書」をより気軽に、より楽しめるものに昇華し、書道から離れてしまった大人に新しい体験を提供する。

## On a Quest to Make Japanese Calligraphy More Accessible

Calligraphy is an art form familiar to me on the same level as fine arts or music. However, it is an unknown world with a high entry threshold for many people. I wanted people to feel the same fascination towards it as I do. I believe my work sublimates calligraphy into something more accessible and enjoyable and offers a new experience to adults who have drifted away from calligraphy as they grew up.



1 コンパクトな道具  
つけペンタイプの筆と、下敷きと一体型のノート。どちらも机の上においても邪魔にならず、片付けも簡単。ノートは蛇腹折りにすることで、御朱印帳のように書を書き溜める楽しさを演出する。



2 日記と共に書を綴る  
書の鑑賞=文字を読む、ではない。作者の感情や筆の動きを想像することが書を楽しむ第一歩。そこで日記と共に書を残し、思い出を重ねながら書を鑑賞できるようにした。



3 あえて上級者向けの筆  
使用されている長い穂先は初心者には扱いにくい。しかし、感覚を掴むと、途端に表現の幅が広がる。線質で自分の上達を感じられるのも「書」の魅力。